

備前市事務事業評価シート

(平成23年度事業)

事業の概要		平成元年		根拠法令・例規等	八塔寺国際交流ヴィラ設置条例
事業開始年度	05	住民主体の協働のまちづくり		問担当課(室)	まちづくり推進課
大項目	02	ふれあい豊かなまちづくり		合職・氏名	協働推進係長 万波 文雄
中項目	01	地域間・国際交流		電 話	0869-64-1806
小項目	02	国際交流ヴィラ管理事業		このシート作成に要した時間	2.0 時間

事業の目的		Plan
対象(誰・何に対して)	外国人利用者及び外国人と交流する日本人	
目的(何のために)	外国人等に日本の文化に直接ふれる機会を提供することで、日本の良さ、備前市の良さを肌で感じてもらい、国際相互理解を推進する。	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	国内外の人々に備前市の魅力を伝え、国内外の人々と市民との交流促進する。	

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	国際交流ヴィラ管理運営事業	吉永・八塔寺ふるさと村に設置されている国際交流ヴィラの管理運営。 4部屋、13人収容	

決算額	事業費等	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	事業費	千円	3,121	2,070	1,523
	必要人員費	人	0.11人	0.09人	0.04人
	事業費	千円	3,991	2,770	1,841
	国庫支出金	千円			
	受益者負担	千円	3,591	2,244	1,389
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他()	千円			
	一般財源	千円	400	526	452
受益者負担比率	%	90.0%	81.0%	75.4%	
結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	
結果指標量	人	1,028	618	384	
対前年比	%	104.7%	60.1%	62.1%	
活動コスト	円	3,991,000	2,770,000	1,841,000	
単位当たりコスト	円	3,882	4,482	4,794	

事業の成果		年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
ヴィラ利用者数	成果指標名	目標値(A)	850	850	850	850
		実績値(B)	1,028	618	384	到達目標値
		達成率(B/A)	120.94%	72.71%	45.18%	850
成果指標設定の考え方・式や説明						
ヴィラ利用者数の確保により施設の安定した運営を図る。						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C

進行年度(H24年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	平成21年度に市の施設としての運営となり、採算性を改善するため利用料金を見直した。平成21年度までは千人を超える利用者があったが、東日本大震災の影響を受け、平成22、23年度は利用者数が激減している。日本人だけでなく宿泊できることなどをPRし、利用者数の増加を図る。						

総合評価		総合評価
外国から訪れる方からの評価も高く、地域での国際交流や備前市の魅力を伝えるうえで重要な施設であると同時に吉永地区における貴重な観光資源である。		A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	宿泊者数の増加による経営改善をすすめるとともに、施設の老朽化に伴う整備方針についても近隣の類似施設も含めて総合的に検討していく。						

事業の意図する成果とつながら成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価する際の留意点